

《「ぐろおがる」学びのイメージ解説》

授業を中心に

総合、特活などを中心に

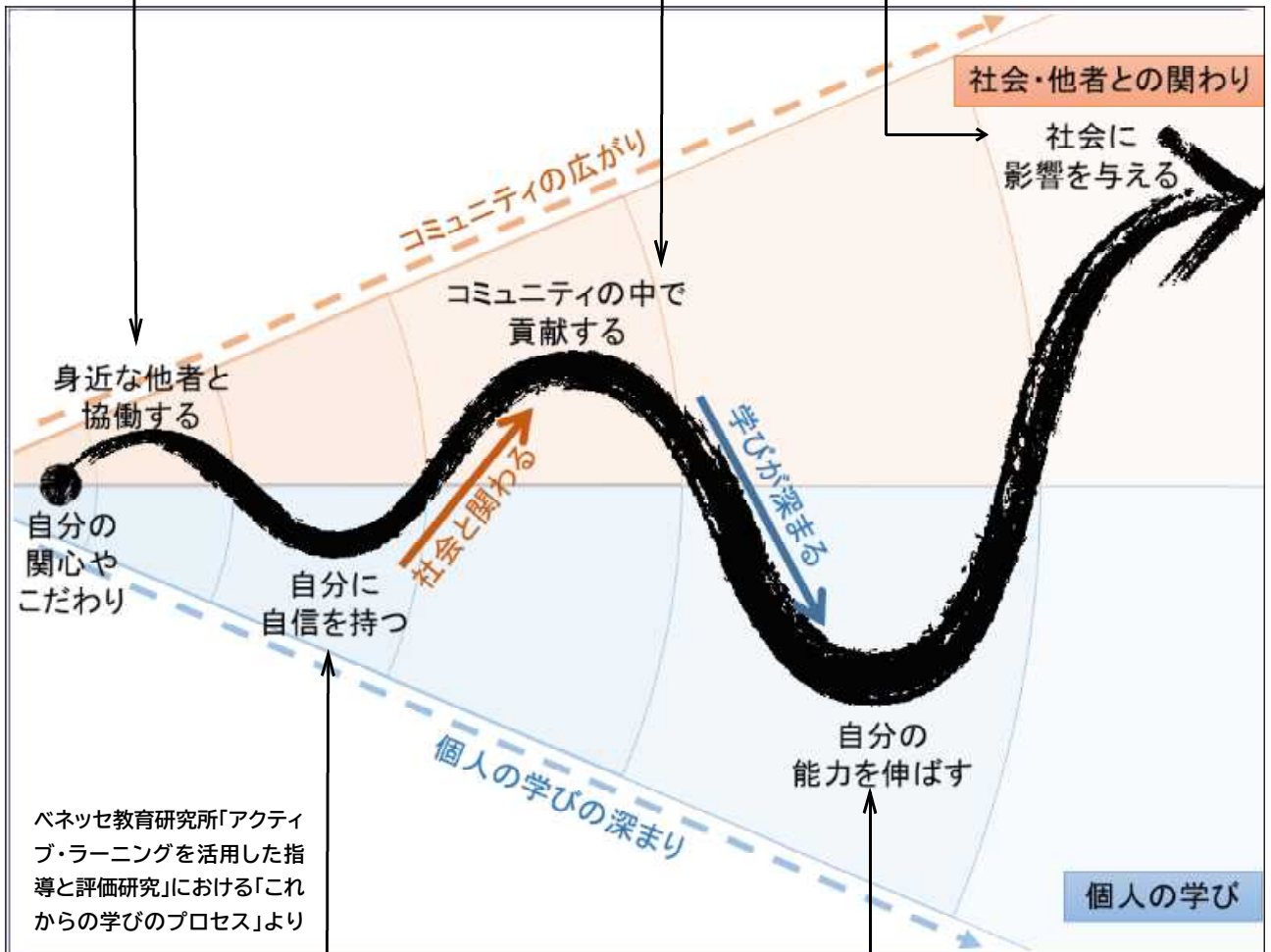
仲間と共に

地域・社会と共に

①授業を中心に仲間と学び合い、協働して課題解決を図る

③NS-netや「地域と繋がる南中の輪」において地域と関わることで、他者（学校関係以外の）から認められる経験を重ねる

⑤学びの成果を多くの他者に発信したり、地域・社会に提言したりして、自分が社会の一員であり、社会に影響を与えているという実感をもつ



②授業の振り返り、終末における定着の確認、教師による学びの価値付けで、できた、分かった、授業に参加したという実感をもつ

④多くの他者から認められることで自己有用感、自己肯定感が高まり、学ぶ意欲が向上するとともに、能力の高まりを自覚する

○うねりの振れ幅が大きくなるほど、ぐろおがるの学びが広がり、深まる
 ○左から右へ向けての流れを1年間の学びの中で体験させ、それを3年間で繰り返すことで、資質・能力の系統的な高まりを目指す → NS-netに系統性をもたせた意味